

題材 「これからの食の行方 - コンビニ店長になってみたら・・・ - 」

対象:高等学校(家庭科食物分野を学習した後が望ましい)

題材設定の背景

平成 17 年度に国の食育基本法が施行され、学校教育の中でも各教科や分掌等で連携をとりながら食に関する指導の充実を図ることとなっている。「家庭基礎」の食生活の中でも、目指すものは「食の自立」であり、健全な食生活を実践していく力を身に付けることである。これは「食」教育と相似するところであるが、時間数の関係から「高校家庭」では補えない部分や、「高校家庭」より広い視野に立った「食」教育というものが必要であると考えた。本授業では、生徒たちがよく利用するコンビニエンスストアに着目し、様々な「食」の問題点について気付かせながら、無意識に行っていた自らの「食」に対する意識や行動を考えさせることを目的としている。

ねらい

自分自身の食生活や将来の社会(食)の在り方について考え、消費者の意識を高めることが、私たちの社会の流れを変えていくことに気付く。

	活動の内容	主な支援と留意点
活動の開始	<p>コンビニの利用やコンビニの仕組みについて考える。</p> <p>本時の活動のねらいを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生のコンビニ利用頻度(調査結果)を示し、どんなときにコンビニを利用しているのか考えさせる。 ・ 店内のレイアウトを基に、私たちの消費行動によって、店の状況が変わることに気付かせる。
<p>自分がコンビニ店長になって、店作りについて考えよう。～これからの食の行方を考える～</p>		
活動の展開	<p>店長として売り上げを上げるために、どんな店作りをするか、次の視点から考える。 (グループ活動 意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だれのための店か(対象) ・ どんな店にしたいか ・ 食品の仕入れで心掛けたいこと <p>食品を選ぶ際の基準と大切にしていかなければならないことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性 ・ 質 ・ 安心 ・ 個性(嗜好) <p>私たち消費者の選択により、何が変わるか考える。 「消費者の選択が、『食』の社会を変えていく」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店の対象者は、お年寄り、働く人、学生、子どものいずれかをグループに割り当てて考えさせる。(2グループずつ、対象者を同じにしておく) ・ 商品の仕入れについては、食に絞って考えさせる。 ・ 同じ対象者のグループごとに、どんな店作りにしたのか、意見交換させる。 ・ 食品の仕入れで心掛けたいことを各グループに発表させ、共通のキーワードをまとめていく。 ・ これまで自分が何を基準に食品を選んできたかを振り返らせ、食の安全・安心を確かめる目をもつことが大切であることをおさえる。 ・ 合理性や利便性よりも最優先させるものがあることを認識させる。 ・ 新聞資料により、私たち消費者が「選び方を変える」ことにより社会の流れが変わることに気付かせる。 ・ 自分に今できることを考えるとともに、いずれは出す側、売る側になっていくことにも触れる。
活動のまとめ	<p>食の行方を明るくするためにできることを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の自分にできることがあることを認識させるとともに、今後の生活に生かしていくことに意義があることを確認する。
備考	<p>・ 家庭科食物分野の学習を済ませておく。家庭科の資料集などを持参させ、参照させると理解の深まりが期待できる。</p>	